

本校の実態

小規模校の特徴を生かし、きめ細やかな教育活動を行っている。落ち着いた中で授業が展開され、生徒の学習への意欲が育成されている。地域は学校に対して協力的である。

学校教育目標

・思考力に富む生徒を育てる
 ・実行力のある生徒を育てる
 ・情操豊かな生徒を育てる。
 を受け、「これからの社会に貢献する人間性豊かで品格のあるたくましい人」を育てる。

育てたい生徒像

・学習、行事、部活動に意欲をもってとりくむ生徒
 ・思いやりある行動ができる生徒
 ・未来に向かって希望をもって進める生徒

学校経営方針（学力向上にかかわる校長の方策 要点）

・各教科等の指導では、生徒が自ら学び自ら考えることのできる教育計画を立てていく。また、指導方法についての創意工夫や改善を図るとともに、個々の生徒の能力に即した指導方法の開発を図る。
 ・新学習指導要領による教育活動により、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指していく。
 ・体力・運動能力向上に関わる取組の充実を図る

各教科の指導の重点

・意欲的、自主的な学習態度の育成
 ・基礎的・基本的な学習の充実
 ・体験学習、情報教育の充実
 ・読書力、漢字力、計算力の充実

総合的な学習の時間の指導の重点

・自分の良さの発見
 ・自分を生かすことができる能力
 ・情報を収集、活用する能力
 ・まとめる、表現する力

進路指導の重点

・自己を理解する姿勢
 ・主体的な進路指導の実行
 ・自らの生き方を探求（職場体験）
 ・自己の多様な可能性を発見

本校における「確かな学力」

○学習指導要領の各内容が理解できること

・基礎的な言語能力を身に付けようとする力
 ・資料を読み取り表現する力
 ・数の概念、計算力、数学的推論、論理的思考力
 ・現象を科学的に考える力
 ・目的や場面に応じて話したり聞いたり伝える能力（コミュニケーション能力）
 ・思考力・判断力・表現力等をはぐむ学習指導の展開を行う。

○特に総合的な学習の時間では

・新たな課題を探求する力
 ・課題をまとめる力
 ・自分の考えを発表し、自己を表現できる力

○学ぶ意欲を育成する

・おおたの子どもポスターにある「学びの場」を意識し、教育活動に臨む。

道徳教育の指導の重点

・自他を尊重し互いに敬愛する態度
 ・社会連帯の精神、奉仕する心
 ・正しい判断に基づき行動、人権を大切にす姿勢

特別活動の指導の重点

・いじめのない豊かな心
 ・責任感と自立する態度
 ・自発的、自主的活動
 ・社会の一員であるという自覚

生活指導の重点

・各種調査等を活用し問題点に気付く
 ・問題行動を見逃さない姿勢
 ・相互理解と協調的な人間関係
 ・家庭、地域社会、関係諸機関との連携
 ・規範意識、安全意識の育成

本校の授業改善に向けた視点

各教科・領域、学校・学年行事等におけるカリキュラムマネジメント

指導内容・方法の工夫

・一人ひとりのコミュニケーション能力向上のためにミニホワイトボードを活用し、クラス・学年を越えて考え等共有する。
 ・読書学習司書の配置に伴い、読書力・探究心を養い、思考力・判断力・表現力を向上させる。
 ・3年間を見通した学習指導をする。
 ・補充教室を実施し、学習に対する個別指導を充実する。

教育課程編成上の工夫

・小中一貫による9年間を見通した教育活動を行う。
 ・安全指導、ヘルスプロモーション（健康増進教育）の充実を図る。
 ・新学習指導要領の内容を理解し、見方や考え方の育成にかかる教育課程編成に向け準備を進める。

校内研修・研究の工夫

・各教科等において、読解力の向上を目指した指導の工夫・改善の研究を行う。
 ・コンピュータ・タブレット端末や視聴覚機材等の教育機器を活用する。
 ・ICT環境に合わせた授業を提案する研究を実践する。
 ・学校、学年、学級の連携による一貫した指導体制を目指す。
 ・新学習指導要領の内容及び解説の理解を図る

評価の工夫

・生徒、保護者に明確な評価、評価規準の作成および検証（発達段階に応じた目標設定）の情報を提供する。
 ・新学習指導要領の考え方に基づく評価の工夫
 ・信頼される評価
 ・ICT活用の評価の工夫

家庭や地域社会との連携の工夫

・学校、学年通信等を活用し情報を計画的に提供する。
 ・授業公開、授業参観等を利用し、家庭や地域と連携した教育活動を連携する。
 ・学校支援地域本部（SSI）の協力を得て地域と連携した幅広い学習活動を行う。

令和3年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、日頃から新出漢字を中心に授業内テストを繰り返すことにより、言語についての知識・理解・技能が向上した。それに伴って、読む力も向上した。
- ・第3学年は、自分の意見を持ち寄って意見を交換したり、表現の仕方を工夫して文章を書く活動を取り入れたりすることにより、話す・聞く力や書く力が向上した。

(2) 課題

- ・1学年は、全体的には目標値を上回っている。自己主張はしっかりできるが、他者の話を聞いて、内容を捉えたり意見や感想を共有し自分の考えを広げたりする力に課題がみられた。
- ・2学年は、全体的には目標値を上回っている。他者の話を正確に捉え、伝えたいことを明確にして書いたり、自分の考えをまとめたりする力に課題が見られた。
- ・3学年は、全体的には目標値を上回っている。文章の構成や展開を読み解いたり、文章の展開に則して要旨を捉えたりする力に課題が見られた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	上回っている。	/	/
第2学年	前年度より 0.9ポイント 上回っている。	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 4.6ポイント 上回っている。	前年度より 3.6ポイント 下回っている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に区の目標を上回っているが、敬語について理解し正しく使う点に課題が見られる。	区の目標を上回っているが、話し手の目的に応じて話の内容を捉える力、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる力に課題が見られる。	区の目標を上回っている。自分の立場や自分のとった立場の理由を明確にする力に優れている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての知識・理解・技能
何事にも意欲を持って伝えたい事柄を明確に探す活動ができなかった。相手の主張の要点を捉えようとするので、さらに良くなると考えられる。	区の目標値を上回っている。話し方の工夫は理解できているが、内容を正確に聞き取る点に課題が見られる。	区の目標値を大きく上回っている。特に、自分の立場を明確にして書くことについて優れている。	単元ごとに作者の意図を読み取る活動を行った成果が出ている。登場人物の心情や情景を的確に捉えることができた。	中学校の新出漢字は身につけつつあるが、一部でまだ習得が不十分であると考えられる。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての知識・理解・技能
話の内容を正確に捉え、反論する活動を伸ばせば、さらに国語に興味関心を持ってもらえると考えられる。	区の目標値を上回っている。話の内容を正確に聞き取るために、適宜メモを取る活動をしたことが要因と考えられる。	指定された文字数と段落構成で自分の意見をまとめる活動を行ったことで、前年度よりも向上が見られた。	区の目標値は上回っている。文章の内容を捉えることはできるが、文章の展開に則して要旨を捉えることに課題が見られる。	前年度より、最も上回った。授業内テストを継続して実施したことで、漢字等の興味関心が高まったと考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
敬語など、相手や場に応じた言葉遣いを使えるように指導していく。	話の要点やキーワードを正確に聞き取ってメモを執る活動を取り入れ、内容を正確に捉えさせる。	自他の意見を聞き合い、適宜メモを取らせることで、考えの多様性を理解させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新出漢字に既習漢字を織り交ぜて、文や文章の中で使えたり、日常生活で使いこなせるようにしたり指導していく。	相手の立場や考えを想定して主張したい点が効果的に伝わるように、話の構成を工夫させる。	引き続き、興味関心を高め、意欲を持って国語に取り組んでいけるように指導していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習漢字の読み書きの他、類義語や対義語、同音異義語などにも触れながら、日常生活の中で語彙を増やすように工夫していく。	文章の展開や内容を正確に捉えて要約したり、適切な言葉に書き直したりする活動を取り入れる。	引き続き、興味関心を高めるとともに、互いの意見を共有することで、さらに意見を深めていけるように指導していく。

令和3年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第3学年は、昨年度の課題も踏まえ、複数の資料を根拠として論述を行う学習課題や家庭学習と授業との関連性を意識した授業運営により、各観点の正答率等が向上しつつある。
- ・第2学年は、昨年度の課題を踏まえ、既存知識や出来事の関連性を問う課題を設け、思考する機会を増やした。そのため、思考・判断・表現の正答率が向上しつつある。

(2) 課題

- ・第1学年は観点別にみると、「知識・技能」の観点において、既存の知識と資料を関連させて捉える力に課題が見られる。また、「思考・判断・表現」の観点において、各種統計資料と社会的事象を関連付けて考察する力に改善の余地が見られる。
- ・第2学年は、雨温図や地図など複数の資料から情報を読み取る点に課題が見られる。教科書や資料集の資料を複数使い情報を読み取るなどの機会を増やし、改善を図る必要がある。
- ・第3学年は観点別にみると一定程度の数値を示しているが、内容別に見ると歴史的分野における日本史の大まかな流れや外国史と関連したその背景への理解について改善の余地が見られる。また、地理的分野では各種資料の読図など、資料活用の技能において継続した指導の必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	下回っている。	/	/
第2学年	前年度より 2.9ポイント 上回っている。	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 4.5ポイント 上回っている	前年度より 4.4ポイント 上回っている。 (第2学年時)	下回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おもに地理分野において正答率が低い傾向にあり、既存の知識と資料を関連させて捉えることに課題が見られる。	おもに現代社会と地理的分野に関する内容において正答率がやや低い傾向にあり、各種統計資料と社会的事象を関連付けて考察する力に課題が見られる。	おもに、地理的分野の「気候に関する問題」と「工業の特色」について正答率が低い傾向にある。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地理的分野の世界の諸地域に関する問いの正答率が全国平均よりも低くなっている。各地域の特徴について印象が薄いと思われる。	資料を読み取り、答えを予想し回答する問いに対して正答率が低くなる傾向がある。	雨温図や地図など複数の資料から情報を読み取り、答える問いに対しての正答率が低い傾向が見られる。	日本の地域構成について、正答率が低くなっている。定期考査に向けて勉強し、知識の定着を図る機会がなかったことが原因の一つと思われる。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
全国の平均正答率を大きく上回っており、特に「近世の歴史」に対する関心・意欲が高いことがうかがえる。	全国の平均正答率を上回っており、おもに「近代の日本と世界の歴史」について高い数値を示している。	全国の平均正答率を上回っているが、「世界と比べた日本の地域的特色」等の地理分野に対して改善の余地がある。	全国の平均正答率を上回っているが、歴史的分野の「江戸時代の政治」と地理分野の「気候区分」について改善の余地がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元導入前の事前学習を活用して予習の習慣が身に付くように指導する。事前学習により資料活用の時間を確保し、グラフや図表を読み取る能力の向上を図る。	グラフや図表から読み取った情報を活用し、根拠を明確にして、言語化、文章化する授業を展開する。	学習課題を時事問題等から導き出し、生徒が主体的に学習課題を設定する活動を積極的に取り入れる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前時の振り返りなどを通して繰り返し知識の定着を図る機会を設けていく。	手元で見られる資料や自身の知識などから答えを予想し、表現する力を養う。	実物資料や画像など各地域や時代の特徴的なものを扱う際に、印象に残る授業展開を行う。また、主体的に疑問や興味のあることを調べる機会を設けていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各単元の学習に入る前に予習的な自宅学習を取り入れる。基礎知識や資料の読み取りを自宅で行わせたいうえで授業を行い、既存の知識と資料を結びつける時間を授業内に設けることで、知識・技能の定着を図る。	グループワークや調べ学習を実施する際に、身に付けた資料活用の技能を活用できる授業展開を行い、ICT機器も活用しながら、文章等で思考を言語化・文章化する時間を設ける。	学習課題を身近な生活や時事問題等から主体的に設定する授業を実践する。また、個人で考察させた後に集団で考えを深める学習等を適宜取り入れ、粘り強く学びに向かう態度を育成する。

令和3年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 2年生は、既習事項について目標値を上回ることができた。習熟度別授業ではじっくりと生徒に対応することができ、生徒の躰きを把握しながら授業を行うことができた。
- ・ 3年生では、おおむね目標値を上回ることができた。資料の活用の単元ではどの項目においても目標値を上回ることができた。身近な数値を用いて課題解決的に取り組んだ成果と思える。

(2) 課題

- ・ 2年生では、情報を正しく読み取り選択する問題での誤答が多かった。授業内でも文章問題を取り入れ情報を正しく読み取る力を養っていくことが課題である。
- ・ 3年生では、数と式において目標値は上回っているものの前年度より大きくポイントを下げた結果となった。基礎基本の定着をより一層心掛け、ていねいに計算に取り組ませていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	やや上回っている	/	/
第2学年	前年度より 11.3ポイント 上回っている	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 1.1ポイント 上回っている	前年度より 1.0ポイント 上回っている (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体として、目標値をやや下回っている。 図形に関する問題で、目標値を上回っている。一方で、数と計算に関する問題で、目標値を下回っている。	全体として、目標値をやや上回っている。 数と計算に関する問題で、目標値を上回っている。一方で、場合の数に関する問題で、目標値を下回っている。	全体として、目標値を上回っている。 図形に関する問題で、目標値を上回っている。一方で、平均の考え方を使って全体の量を予測する問題で、目標値を下回っている

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を下回った項目はない。記述問題において無回答の生徒がいる。	目標値を下回った項目はない。資料の活用の単元で、正答率が低い。	全体的に目標値を上回っている。分数と分数の除法の計算で、目標値を下回った。	全体的に目標値を上回っている。素因数分解や累積度数についての問題で目標値を下回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
連立方程式で x と y が何を表すのか指摘する問題において目標値を下回った。	連立方程式で問題文を読み取る問題において目標値を下回った。	式の計算で分数を含む多項式の減法の計算において目標値を下回った。	1次関数で y 軸に平行なグラフについての問題において目標値を下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な単元で小数・分数、速さ、割合、平均を扱う際には復習を取り入れながら丁寧に進めていく。	公式や計算の方法等を取り扱う際は、理由や利点も含めて考えさせ、説明させる活動を取り入れ、根拠に基づき論理的に説明する能力を伸ばす。	具体的な問題を数学を用いて解決できるような問題に取り組む機会を1単元1回以上設け、学習内容を生活に生かそうとする態度を育む。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数計算など、小学校からくり返し学んでいる計算であっても、出題される都度振り返って、計算方法を確認する。言葉の意味などは、その用語が何を表すのかを丁寧に説明しながら授業を進めていく。	資料の活用の単元では、資料を整理した後に、分析したり説明したりする活動を取り入れ、資料の見方について学習を深めていく。	分からない問題に出会った時、その問題に対して諦めず粘り強く取り組む態度を伸ばせるよう、励ます。分からない部分をきちんと振り返って次の学習に生かせるよう促していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数を含む式の計算においては繰り返し復習を取り入れながら定着を図っていく。	文章問題においては、問題文を正しく読み取り、式に表せるように繰り返し練習を進めていく。	文字の意味するところや式の意味をも考えられるよう、問題についての理解を深めさせる。

令和3年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3学年では、技能以外は上がっている。関心を高める授業をこない、生徒が意欲的に学習をおこなっている。
- ・2学年では、関心・意欲・態度は上がっている。

(2) 課題

- ・3学年では、技能が下がっている。実験・観察に関して、なるべく少人数でおこない、基礎・基本をおさえる必要がある。
- ・2学年では、関心・意欲・態度以外は達成率が下がっている。知識・理解の観点でその達成率が顕著に下がっているので、ドリルや問題演習などを通して、基礎的・基本的に知識の定着をはかる必要がある。
- ・理科の学習では、単元により得意・不得意があるので、生命分野とエネルギー分野について各学年で授業改善を加えていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	平成2年度結果	令和元年度結果
第1学年	下回っている。		
第2学年	前年度より 8.2ポイント 下回っている。	上回っている (第1学年時)	
第3学年	前年度より 10.6ポイント 上回っている。	前年度より 5.1ポイント 下回っている	下回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。	目標値を下回っている。	目標値を上回っている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
前年度より 0.5ポイント 上回っている。	前年度より 5.5ポイント下回っ ているが、目標値を超 えている。	前年度より 10.6ポイント下回 っているが、目標値を 超えている。	前年度より 10.4ポイント下回 っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
前年度より11.5ポ イント上回っている。	前年度より3.9ポ イント上回っている。	前年度より4.7ポ イント上回っている。	前年度より15.1ポ イント上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実験・観察については、できるだけ実施するとともに、その目的を明らかにし、主体的に取り組むようにする。</p> <p>基礎的な知識の蓄積が必要なので、小テストやドリルなど、定着のための方策を多くとる。</p>	<p>科学的な思考を要求されるような課題を設定し、生徒間で討論させる。思考・判断を正確にするために確かな知識・理解を定着させる。生徒から多くの意見を引き出し、他者に正しく伝わるよう、正確な表現を互いに考える。</p>	<p>楽しい授業に取り組み、一人ひとりが積極的に授業に取り組むようにする。生徒全員参加ができるように、意見を出しあうような授業をする。</p>

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実験・観察においては、目的をはっきりさせ、そのためにはどのように実施するかを明確にしていく。</p> <p>基礎的な知識の定着をさらに高めるため、重要事項については、くり返し学習するとともに、ドリル等を多用し、生徒自身が自信を持てるようにする。</p>	<p>科学的な思考を要求するような課題を多く設定し、生徒間で討論させる。合理的な判断ができるように、課題に対して、適確な表現でその解答を示し合える指導を心掛ける。</p>	<p>生徒全員が取り組めるような課題の設定をし、一人ひとりが参加できるような実験・観察を組織し、主体的に取り組めるような授業を展開する。</p> <p>授業に参加することが楽しくなるよう、積極的な発言が多く出るような課題設定をし、その探求の過程を大切ににする。</p>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実験・観察においては、目的をはっきりさせ、そのためにはどのように実施するかを明確にしていく。</p> <p>基礎的な知識の定着を高めるため、重要事項については、くり返し学習するとともに、ドリル等を多用し、生徒自身が自信を持てるようにする。</p>	<p>科学的な思考を要求するような課題を多く設定し、生徒間で討論させる。合理的な判断ができるように、課題に対して、適確な表現でその解答を示し合える指導を心掛ける。</p>	<p>生徒全員が取り組めるような課題の設定をし、一人ひとりが参加できるような実験・観察を組織し、主体的に取り組めるような授業を展開する。</p> <p>授業に参加することが楽しくなるよう、積極的な発言が多く出るような課題設定をし、その探求の過程を大切ににする。</p>

令和3年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・生徒の発言が多くなり、意欲が高まった。

(2) 課題

- ・自信を持って歌うことができている生徒があまり多くないので、増やしていきたい。
- ・自分の思いを歌唱表現に生かすことができる生徒があまり多くないので増やしていきたい。
- ・ICTを活用した授業の充実させていきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
真面目に取り組む生徒が多い。技能が高い生徒が多い。知識はあまり高くないため、反復させる必要がある。	感じ取ったことを歌唱表現に生かすことができている。	授業規律が確立され落ち着いて学習することができる。男女とも歌唱への意欲がとても高い。

② 第2学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
自分たちでアドバイスしたり協力したりして学習する姿勢が見られる。	昨年度同様、感じ取りことはできるが、歌唱表現に生かすことができる生徒はあまり多くない。	音取りが苦手な男子が多い。女声パートは少しずつ発声が良くなってきている。	音楽的なことと関わらせて考えることができる生徒があまり多くない。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
自分たちで協力しあって学習することができている。	昨年度同様、感じ取りことはできるが、歌唱表現に生かすことができる生徒はあまり多くない。	男女とも、歌唱の技能があまり高くない。歌うことへのエネルギーが全体的に弱い。	音楽的なことと関わらせて考えることができる生徒があまり多くない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>技能は継続して繰り返すことで向上していくことが見込めるので、様々な発声練習で力を伸ばしていく。</p> <p>知識は、ICTを活用するなど、視覚的にもわかりやすくすることと、こまめに生徒に確認していくことで習熟度を把握していく。</p>	<p>考えたことを色々なパターンで表現する活動を増やし、歌唱表現を工夫する力を高めていく。また、言語化させる活動をとおして根拠と関わらせて考えさせる力を高めていく。</p>	<p>高い意欲で、前向きに取り組む生徒が多いため、表現することに自信を持てるような活動を継続して取り組ませる。</p>

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>音とりの際に個別の聴き取りを行い、個別にアドバイスする。よりよい発声を定着させるための基礎的な発声練習を通して段階的に声づくりを行っていく。</p> <p>知識は、楽典の理解がまだ不十分なので継続して練習問題に取り組ませる。</p>	<p>感じ取ったことを表現に生かすためのアドバイスを自分で気付かせる活動を多くする。作詞者作曲者の意図を読み取る活動をとおして音楽表現を高めていく。</p>	<p>自分の表現や、考えたことを自信を持って発表できるような活動を増やし、発表することに慣れさせて自信をつけさせていく。</p>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>個別のアドバイスで技能を高めるだけでなく、自分で課題を見つけ自ら技能を向上させる活動を増やしていく。</p> <p>知識は、鑑賞については歴史的な背景を関わらせて理解を深められるように教材研究に力を入れ、授業の充実を図る。</p>	<p>自分たちで聴き合い、アドバイスする活動をとおして全体的な音楽表現のレベルアップを図る。今まで学習してきたことと関わらせて考えさせたり、発表させたりすることで総合的な音楽表現の向上を図る。</p>	<p>3年になり全体的な意欲が高まっているので、さらに自信をもって活動できるようにアドバイスをしていく。ICTを活用し、鑑賞や器楽についても高い意欲で学習させる。</p>

令和3年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・昨年度実施の東京国立博物館との連携「松林図屏風」の鑑賞授業で得られた生徒の意欲と鑑賞の能力の向上の成果を生かして、グループ活動が制限される中でも、放送機器を活用したり、生徒の意見を掲載するワークシートを作成したりして、互いの意見発表から学び合う授業を通して鑑賞の能力を高められた。
- ・昨年の休校中の課題を生かして、WEB や映像、外部機関を活用して行う題材を実施し、効率的に、作品のよさや美しさを感じ取る鑑賞授業に意欲をもって取り組んでいた。
- ・1 学年では、昨年の休校課題を活用した色彩の学習を展開して、興味関心を高められた。
- ・2 学年では、昨年の休校課題を活用した生活に生きるデザインの鑑賞が深められた。
- ・3 学年では、昨年の休校課題の「阿修羅像鑑賞」を展開して作品を考える力を高められた。

(2) 課題

- ・新学習指導要領の実施に伴って作成した評価規準や年間指導計画の定着が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	平成元年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
昨年度の休校中の課題を生かして、様々な色彩を生活の中から探し出すワークを行えたので、造形的な視点について実感を伴って理解を深めることができた。	例年実施していた美術館鑑賞ができないので、1 学期の早い時期に、発表の方法や鑑賞を深める授業を行った。そのため、鑑賞授業の意義やねらいが例年より早く定着した。	鑑賞授業では視聴覚機器やタブレットが活用できたので、自分の意見を発表したり、自分以外の生徒の意見を聞いたりすることが容易にでき、楽しく取り組むことができた。

② 第2学年

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
他教科の活動方法を生かしてグループ活動を行い、技能を高める手立てを工夫した。個々の理解力が高いので、材料の特性や用具を生かして行う打ち出しの方法も知識・技能ともによく身についた。	造形的な特徴を基に目的や機能との調和のとれた美しさを鑑賞するワークでは考える視点がやや不足していたが、昨年使用したWEB資料や発表活動を工夫した結果、見方や感じ方を広げることができた。	意欲をもって、表現および鑑賞の学習に取り組んでいた。表現・鑑賞ともに楽しく学習に取り組んでいる。1学期末考査の得点結果から、学習課題に前向きに取り組んでいることが強く感じ取れた。

③ 第3学年

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
自然の形や色彩、光などの性質が感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に、生命感や季節感などのイメージで捉えることを理解している。透明水彩の描き方の特性や用具を生かして、意図に応じて表現方法を追求して創造的に表している。	話し合い活動はできないが、他の生徒の意見のまとめプリントを活用して、自分なりの感性を生かして日本仏教美術のよさや美しさを味わうことが出来ている。扇面画では、自分の思いを反映する作品のテーマや題材の発想構想を深めることができています。	感染症対策により、1・2年次の学習方法とは異なる表現や鑑賞の授業が展開されているが、最終学年としての意識をもって、自ら意欲関心態度を高めている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
基礎的な知識や技能を確実に習得させるために、小学校図画工作での学びを生かしたり、実感をもって取り組む課題を設定したりして、主体的に表現の活動に取り組めるようにする。	鑑賞授業ではタブレットの機能を生かした意見交換の方法を行い、よさや美しさを味わう感じ方や見方を広げる。表現の発想構想にも展開して、造形的な視点をういた思考の定着を図る。	学習成果を互いに認め合ったり鑑賞における意見交換を生かしたりして、他を認めるとともに自己肯定感も高めて楽しく美術の学習に取り組ませる。

(2) 第2学年

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
各自で制作の見通しをもち、かつ主題に合わせて、各自で創造的な技能が発揮出来るように、指示の言葉や学習形態、説明方法を工夫して指導していく。	今までに経験したことの無い題材を設定して、新鮮な気持ちで発想や構想に取り組ませ、豊かな発想力構想力を育む。話し合い活動に変えて、タブレットの機能や視聴覚機器を活用した学習活動を工夫して、美術の見方や考え方を広げる。	多様な見方や考え方による成果を互いに共有し、自己肯定感を高める事で、自信をもって学習に取り組めるようにする。昨年同様、一学級の人数が多いので、よりていねいな指示の言葉や指導方法を心がける。

(3) 第3学年

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>小学校図画工作や中学校2年間の学びや既習事項を生かして、作品の主題や意図に合った技能を自ら選ばせて、創造的な技能を発揮させる。完成までの見通しをもたせることにより、主体的に表現の活動に取り組ませる。</p>	<p>主体的に発想構想の能力を発揮出来る授業を展開する。自らの主題を明確にさせたり材料や技法を考えさせたりして、発想や構想の力を発揮させる。鑑賞では日本文化や多様な美術表現の普遍的な価値を自分なりの感覚で捉えつつ他の生徒の意見も生かして、よさや美しさをより深く味わい、見方感じ方を広げさせる。</p>	<p>義務教育最後の美術教科として、既習事項を確認させつつ、新たな技能も活用させることで主体的に取り組ませて、自分にとって最高の表現が出来るような授業展開を心がける。同時に個別指導を充実させて、達成感や自己肯定感を育めるような題材を設定する。</p>

令和3年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な運動課題からやりなおすことにより、運動への意欲の向上を図ることができた。
- ・一人ひとりの課題に合った取り組みができる学習カードを活用し、課題を解決させることができた。
- ・「走る」技能が全ての運動の基礎となることに重点を置き、指導することができた。

(2) 課題

- ・幼少時からの運動経験が少なく、技能が低い水準となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による、運動機会の減少に伴った、体力の低下。
- ・ICT機器を活用した、運動観察を通じた課題発見学習の展開。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理できたが、自分の言葉で説明できる生徒が少ない。 50m走及び長距離走のタイムは例年よりも遅い。授業内での運動量は多くなっている。	自らの課題を発見しようとする姿勢が弱い。	授業規律の確立・集団行動の徹底を通じ、安全に学習できる環境が整ってきている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
安全に留意しながら取り組む姿勢や、互いに声を掛け合い、主体的に運動に取り組む生徒が増えている。	自らの課題を発見し、解決しようとしている。自分に合った練習方法を選んだり、工夫したりする生徒が少ない。	個々の技能の向上に取り組んでいるが、集団の中で活かせる技能までは至っていない。運動量は確保できている。	基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理することができた。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
安全に留意しながら取り組む姿勢や、互いに声を掛け合い、主体的に運動に取り組む生徒が多い。	自らの課題を発見し、解決しようとする生徒が増えてきた。提示された練習方法から課題解決に向けたものを選ぶことができるが、工夫する生徒が少ない。	運動量を確保しながら、個々の技能の向上に取り組んでいるが、集団技能に繋がっていない。	基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理することができた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT機器を活用しながら、より高い意欲で学び、知識やポイントを理解・整理できるようにしていく。学習カードも継続して活用していく。技能の向上を根底から支える、基礎体力を向上させるために、運動量を確実に確保していく。模範を示し、体の動きをイメージしやすいようにする。	課題を端的に、明確に提示する。また、練習の内容や技能向上に繋がるポイントを分かりやすく説明しながら授業を展開する。	運動や健康について興味・関心のある生徒が多い。安全に留意しながら、興味関心をかき立てる指導を継続していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT機器を活用しながら、より高い意欲で学び、知識やポイントを理解・整理できるようにしていく。学習カードも継続して活用していく。運動量を確保し、体力の向上を図りながら、基本的な技能に加え、発展的な技能にも挑戦していく。個人の技能は、全体に向けて発表・披露できるようにしていく。	指示を少なくし、練習の内容を生徒同士が工夫しやすいようにアドバイスを出していく。さらに、練習方法を提示し、生徒が選択して取り組むことができるようにする。	運動や健康について興味・関心のある生徒が多いため、安全第一に取り組むことを継続して授業展開をする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動や健康に関する知識が将来への関連性を意識させた学習をさせる。より高い技能を身につけられるよう、模範を示し、細かい技能指導を適宜行なう。ICT機器を活用しながら、模範との比較を行っていく。	練習の内容を生徒同士が考え工夫しやすいようにアドバイスを出していく。	生涯の豊かなスポーツライフの設計に繋がるように、身近な運動や健康な生活を実践するための姿勢を育む授業展開を行う。

令和3年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器の活用により学習効果を高めることが出来た。
- ・生活や技術に対する関心を持ち意欲的な取り組みが見られる。
- ・基本的な生活能力を実践的に活かせるように身近な生活と結びつけることができた。
- ・製作や実習に際し、作業手順をイメージすることや基本的な技能が身についた。
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。

(2) 課題

- ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高める。
- ・製作の際は、作業工程別に進捗を可視化することで効率を上げる。
- ・パソコンを活用して効率よく調べる技術を身につける。
- ・授業での調理実習が難しいため、課題における家庭での経験を貴重な機会とする。
- ・学習ノートやプリントを個別に確認することで知識・理解の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	/	(第1学年時)	/
第3学年	/	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の着用、選択、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	中学生の食生活と栄養について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。製作に必要な基本的な技能を身に付け、安全に作業することができる。	小学校の学習を振り返り、3年間の見通しをもって学習に取り組もうとしている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	食品の栄養的特質について理解し、食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分の成長や生活は、家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。	自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり工夫している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基本的な知識を身に付けている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に必要な栄養を満たす食事について理解するとともに、地域の食文化について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基本的な知識を身に付ける。	衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができるようにする。製作の際は、手順書を読み解き、立体をイメージしながら作業できるようにする。	衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとする。製作については、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解する。日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに適切に選択できるようにする。	1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせができるようにする。製作に必要な技術を身に付け、作業効率も意識しながら、安全に布を用いた物の製作をできるようにする。	自分の食生活に関心をもち、健康によい食習慣について考え、日常生活で実践する。家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解し、購入に関する知識を身に付ける。自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解できるようにする。	幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて理解を深める。環境に配慮した消費生活について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活の実現に向けて、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践する力を身に付ける。

令和3年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 1年生は聞くことの結果が目標値を大きく上回っている。ICTを活用して音声指導を行った成果が見られる。
- ・ 2年生、3年生ともに、領域別と観点別のどちらも目標値を上回っている。3年生の経年比較では昨年度を下回っているが、目標値と比較すれば良好な結果といえる。

(2) 課題

- ・ 1年生は主体的に学習に取り組む態度の結果が、わずかに目標値を下回っていることから、今後、授業改善に取り組む必要があると言える。
- ・ 2年生は聞くこと（内容を理解する力）について授業を改善する必要がある。
- ・ 3年生は聞くこと、書くこと共に内容を理解するだけでなく資料から情報を読み取ったり判断したりする力について、授業改善の必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和3年度結果	令和2年度結果	令和元年度結果
第1学年	目標値を上回っている	/	/
第2学年	目標値を上回っている	(第1学年時)	/
第3学年	前年度より 4.2ポイント上回っている。	目標値を上回っている (第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文が定着するにつれ英語の音声や文法の特質を理解できるようになっている。	英問英答でのやりとりを通して、短い文章から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることができている。	日常の話題について、自ら質問したり、相手の質問に答えたりしようとしている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
高い数値を示しており、良好である。	目標値を上回っている。表現活動に力を入れたことが良い結果につながった。	目標値を上回っている。今後もリスニングに力を入れ、内容理解の力を伸ばすために Q&A の練習を継続していく。	目標値を大幅に上回っている。語彙力を伸ばすためにも、語彙・語法に関して、類語と関連づける指導を継続する。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
高い数値を示しており、良好である。	目標値を大幅に上回っている。表現活動に力を入れたことが良い結果につながった。	目標値を上回っている。今後もリスニングに力を入れ、内容理解の力を伸ばすために Q&A の練習を継続していく。	目標値を上回っている。語彙力を伸ばすためにも、語彙・語法に関して、類語と関連づける指導を継続する。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
暗唱・暗写の機会を多く設けることで、基本的な表現の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	まとまりのある英文を聞いたり、読んだりする練習を行い、情報を読み取る（聞き取る）練習の機会を今後も設けていく。状況に即し、英語で自己表現する取り組みを継続して行う。	生徒自らタブレット端末を活用し、自国や他国の文化を調べることで関心をもてるようにする。また生徒が英語で会話をする機会を増やし、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを実感できるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
暗唱・暗写の機会を多く設けることで、基本的な表現の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	まとまりのある英文を聞く練習の機会を増やし、聞き取った内容の要点をつかむ力や情報を整理する力を身につけられるようにする。状況に即し、英語で自己表現する取り組みを継続して行う。	生徒自らタブレット端末を活用し、自国や他国の文化を調べることで関心をもてるようにする。また生徒が英語で会話をする機会を増やし、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを実感できるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
暗唱・暗写の機会を多く設けることで、基本的な表現の定着をはかり、英語を正しく発音したり、書いたりする力を身につけられるようにする。	まとまりのある英文を聞いたり、読んだりする練習に加えて、グラフなどの資料から情報を読み取る練習の機会を増やす。状況に即し、英語で自己表現する取り組みを継続して行う。	生徒自らタブレット端末を活用し、自国や他国の文化を調べることで関心をもてるようにする。また生徒が英語で会話をする機会を増やし、外国語でコミュニケーションをとる楽しさを実感できるようにする。